

寅さん歩 その23

東京の博物館めぐりー2

台東区ー2



平野 武宏

今回は台東区の博物館の続きです。写真右上は東京を代表する観光地の台東区浅草です。大名時計博物館以外は初めて知り、初めて訪れた博物館です。

いろいろな博物館があるのに驚きました。多くある博物館(記念館・資料館含む)から寅次郎の好みで選び、独断と偏見の感想と紹介です。博物館の多くは内部の撮影が禁止となっています。各博物館の詳細を知りたい方は各博物館のホームページをご覧ください。入場料は訪問時のもので、最寄り駅は代表例です。

東京2020オリンピック聖火リレー神奈川県コース バーチャルウォークの途中経過も報告します。

【大名時計博物館】 台東区谷中 2-1-27 最寄り駅 千代田線 千駄木駅

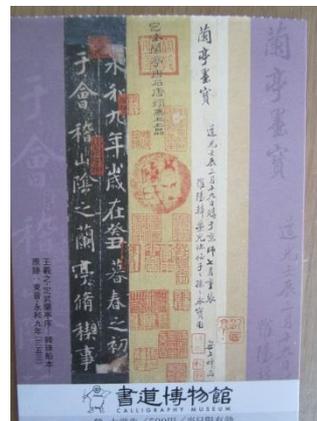


一度訪問しましたが、あまり記憶に残っていない

ので、再度の訪問です。団子坂下から三崎坂を上り、谷中中学校の角を右折、道なりに行くと右側に表示があります。正門(写真上左)脇には勝山藩下屋敷跡の石柱があります。陶芸家 上口愚朗が生涯にわたり収集した江戸時代の貴重な文化遺産を長く保存するため、1951年(昭和26年)保存会を設立し、初代理事長に就任。没後、1974年(昭和49年)ご子息が「大名時計博物館」として開館したとのことです。江戸時代の大名お抱えの御時計師達による手造りの各種の製作時計を1部屋に陳列した小さな博物館です。写真上右は入場券で写真は櫓置時計(最初期の櫓時計で、時計櫓の上で使用した櫓掛時計に、歯車一枚増え、台に置いて使用)とのこと。入場料は大人300円、大・高校生200円、小・中学生100円で、開館日は1月15日~6月30日、10月1日~12月24日、開館時間は10時~16時です。ウォーカーの寅次郎、歩度計(腰に下げて

何里、何町歩いたかを計る江戸時代の万歩計)に興味を示しました。
小さな博物館ですが、外国人3人組が熱心に展示に見入っていました。

〔書道博物館〕 台東区根岸 2-10-4 最寄駅 JR 鶯谷駅北口



尾久橋通りの竹台高校前信号をJR線路方向に入り、ホテル街の先にあります。
写真上左は建物、中は入館時の栞、右は入場券です。

洋画家・書家の中村不折が独力で蒐集した中国及び日本の書道史研究上貴重なコレクションを1915年(大正4年)邸内に陳列室を設置、1936年(昭和11年)「書道博物館」として開館。以降、中村家により維持保存されて来ましたが、2000年(平成12年)台東区に寄贈、「台東区立書道博物館」として再開館しています。「本館」と寄贈後に建設された「中村不折記念館」があり、漢字の書法や文字の歴史をたどる貴重な資料、テーマに基づいた企画展、中村不折の作品が展示されています。紙本墨書以外の金石関係の資料が多くあるのが大きな特色です。訪問時には東京国立博物館との連携企画展「生誕550年記念 文徴明とその時代」が行われていました。

中村不折は「新宿中村屋」の看板文字、清酒「真澄」や「日本盛」のラベルを手がけ、親交のあった夏目漱石の「吾輩ハ猫デアル」の挿絵、島崎藤村の「若菜集」、伊藤左千夫の「野菊の墓」などの装幀・挿絵も手がけているとのこと。開館時間は9時30分～16時30分、休館日は月曜日(祝日の場合は翌日)。観覧料は一般・大学生500円、高～小学生250円です。毎週土曜日は台東区在住・在学の小・中学生は無料です。

〔江戸たいとう伝統工芸館〕 台東区浅草 2-22-13 最寄駅 浅草駅

日本でも有数の伝統工芸の集積地である台東区は江戸時代から受け継いだ下町

の文化や気質を色濃く残す町です。先人の心意気を受け継ぎ、大切に守りながら伝統工芸品を作り続けています。浅草ひさご通り（花やしき近く）にあり、伝統工芸品の常時展示や、週末には職人による「出張！匠工房」があります。



写真上左は入口、右は1階の館内です。2階もあります。
開館は10時～16時、休館は第2・第4火曜日（祝日の場合は翌日）、入場無料。

【世界のカバン博物館】 台東区駒形 1-8-10 最寄駅 銀座線 浅草駅A1

江戸通りに面した「エース株式会社」のビルにある約50か国550点のカバンを所蔵する博物館です。受付で入館証をもらいE Vで7階へ行きます。世界の国にはそれぞれのカバンの歴史、独自の文化や風俗があると知りました。旅行に出るのは富裕層に限られた時代には、重くて頑丈な作りのカバン（写真下右）なのでポーターが運んでいました。



次第に市民が旅行を楽しめるようになり、軽くて持ち運びしやすいもの（写真左）に変化しています。

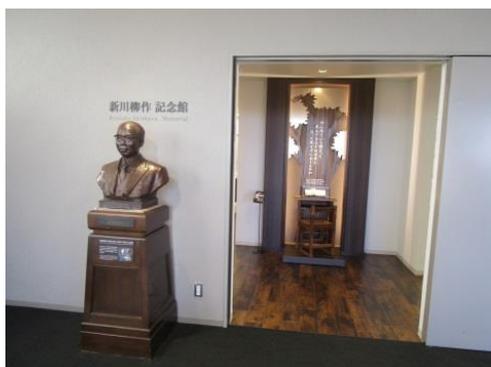
写真右は著名人の寄贈コーナーです。
 吉川英治(左から1列目上段)
 アントニオ猪木(左から2列目上段)
 羽生結弦(左から2列目下段)
 長嶋茂雄(左から3列目中段)
 三浦雄一郎(左から3列目下段)
 岩井半四郎(左から4列目上段)
 香川真司と福原愛[赤色]のキャリー
 バック(左から4列目下段)などが
 並べられていました。



開館時間は10時～16時30分、休館日は日・祝日、年末年始、入場無料です。

【新川柳作記念館】 台東区駒形1-8-10 最寄駅 銀座線 浅草駅A1

「世界のカバン博物館」の上、8階に立ち寄りしました。新川柳作はエース株式会社の創業者であることを知りました。カバン造りを天職として歩んだ歴史が展示されていました。写真下左は入口と新川柳作の胸像、写真右は室内です。



【日本文具資料館】 台東区柳橋1-1-5 最寄駅 浅草橋駅東口



駅から千葉方向へ線路沿い右の道を行くと東京文具販売健保会館(写真右)の1階にあります。多くの筆記関係の展示物が並び、古代からの文具・筆記具の歴史を学びました。写真下左は入館時の菜、下右は室内です。

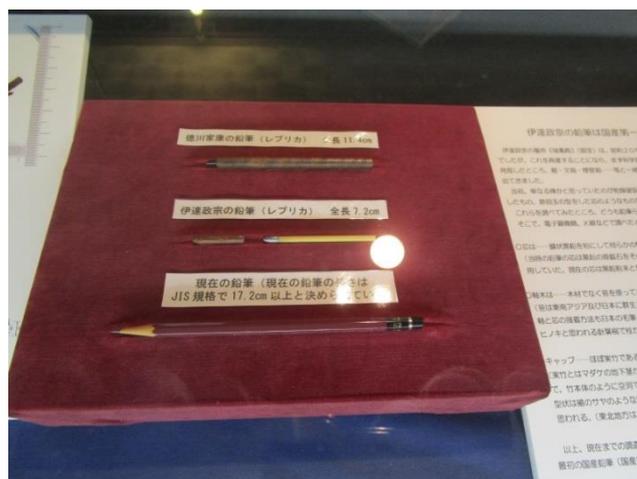


特別展示には徳川家康の鉛筆（渡来品）、伊達正宗の鉛筆（国産）がありました。

上段：徳川家康の鉛筆

中段：伊達正宗の鉛筆

下段：現在の鉛筆



開館は 13 時～16 時、休館日は土曜・日曜・祝祭日・年末年始、入場は無料です。

【寄り道】子規庵 台東区根岸 2-5-11 最寄駅 JR 鶯谷駅北口



書道博物館の前にありました。

俳句・短歌の革新者の正岡子規が命の炎を燃やし尽くした家です。

子規は 1894 年（明治 27 年）2 月故郷松山から母と妹を呼び寄せ、この家に移り住みました。この家で病臥しながら、文学の近代化のために、精力的に情報発信し

続けました。8 年半後の 1902 年（明治 35 年）9 月 19 日、糸瓜（へちま）の句 3 句を絶筆として、その生涯を終えた時は、34 歳 11 ヶ月でした。多くの俳人・歌人・画家・友人（夏目漱石・森鷗外・与謝野鉄幹）らがこの家を訪れています。戦災で焼失し、1950 年（昭和 25 年）当時のままの姿に再建。9 時 30 分～12 時、13 時～16 時に入場料 500 円で公開。休館は月曜日（祝日の場合は翌日）。

〔バーチャルウォーク途中経過〕

八柳修之さんの東京 2020 オリンピック聖火リレー神奈川県コース（380 k m）と東京都コース（160 k m）のバーチャルウォークが F W A ホームページ「Y R ・四季の道」に掲載されました。

寅次郎、神奈川県コースの芦ノ湖畔の駅伝往路ゴール地点を 1 月 30 日スタートしました。箱根町役場を経て 2 月 4 日現在、30 k m 地点（伊勢原市）に到着です。

神奈川県コースの後は東京都コースに挑戦し 7 月 24 日のオリンピック開会式を目指します。

バーチャルコースの 1 マスは 2 k m です。毎日の歩いた距離を塗りつぶして、すぐろくのように進みます。

目標を持って歩くのは楽しく、達成感があります。

皆さんも一緒にバーチャルウォークを始めませんか。

神奈川県又は東京都だけのバーチャルコースでも良いですよ。



次回は 東京 2020 聖火リレー-14 です。

平野 寅次郎 拝